

# おわりに

## 本当は、始まり

「解決志向のクラスづくり」は、最高のクラスを皆で目指していくプログラムです。しかし、「クラス団結！ 一丸となって勝ち進む！」といった雰囲気とは異なるものであることに、本書をお読みいただいて気づかれたことと思います。

「クラス一丸となって……」は、お互いがバラバラで無関心なクラスよりも、ずっとよいクラスに近づけることでしょう。しかし、その場合、もしかしたら、その雰囲気に乗れない子ども、その一丸という塊に入れない子どもは、クラスから疎まれるかもしれないし、自分は駄目だと感じるかもしれません。そうなりたくないから無理をしている子どももいるかもしれません。最高のクラスを目指しているはずなのに、そこにははじめや不登校の芽が潜んでしまうこともあるのです。

「解決志向のクラスづくり」では、同じクラスで1日を過ごしても、ある子どもにとってこのクラスは最高だと思える日が、別の少数の子どもにとっては、とても残念に感じられることもあるということを大切にします。クラスの中で、一人一人がいろいろな思いをもち、さまざまな経験をしている。そのことをお互いに気づき、そのなかでお互いの良さを見出し、尊重し認め合っていく。どんな子どもたちも一人一人にとっての最高のクラスを、一人一人が自分にできる一歩を進むことで目指していく、それが「解決志向のクラスづくり」の目指す、誰もが通いとなる安心安全な最高のクラスです。

そのための黒子の役割をクラスアシスタント（CA）が少しだけ担います。CAは、先生方のチームの一員として、子どもたちの「できていること」をただただ観察して伝えるというシンプルな働きから、クラスのそこそこに埋もれていた小さな解決のかけらに光を当て続けます。CAがお借りする授業時間は約10分あまり、週に1回、1時限、5回程度。でもその5回が完了しても、それは終わりではなく、本当は始まりです。その後、子どもたちや先生方がここから手応えを得て、CAがいてもいなくてもクラスでできていることに注目し、お互いを尊重し、素敵なクラスの状態を皆で考えながら、目標に向かって具体的な指針をつかんで進んで行くことが本当のねらいです。

「うまくいっていることは続けていく」「一度でもうまくいったことはもっとそれをする」。「解決志向のクラスづくり」は、これからが本当の始まりなのです。クラスにある宝の山を皆で楽しくザクザクと掘り起こしていきましょう。そのときの合い言葉は、“Believing is seeing！”（信じていけば見えてくる）です。